

《ロンドンからのたより(両親宛)》・1976
～【タヴィストック】これから本番&一時帰国～



1976年1月5日

お父さま&お母さまへ

お正月を迎えて、今日はもう5日です
から、日本では仕事始めで人々はそれぞれ新しい
気分で頑張ろうとしていることでしょう。先日は
久しぶりに家族の写真が届きましたから、皆の
元気な様子を見られて安心しました。こちら
からも送りたいとは思いますが、どうも近頃は写
真を撮る気持ちにさっぱりなりません。実際のところ、
ギョツとするほど現像代が高いものですから。お
天気も良くないし。この1週間は薄暗く、時には
しぐれの降るような、風の強い、肌寒い日々で、
人々はゴホンゴホンってやってます。私も鼻風邪
ですが、大したことはありません。とにかく暖かくし
て、不経済に時間を費やさずとも済むように、
体調を崩して寝込むことなどないように気を使っ
ています。お父さまは日曜も休まずに会社に勤
めているとのこと、大丈夫なのですか？写真で
は至極元気そうで、庭の鯉を眺めているのは相
変わらずの様子で、ちっとも昔と変わっていない
わね。(ジャンパーの下からシャツが出ていたりし
てさ・・・！)それでも、庭の石をよくよく見れば、苔
が美しく育っているようで、私が去ってから経た
歳月の跡をそこにふと思ってみるのです。

今日、本出祐之先生がロンドンを発ち、
帰国されました。アメリカに立ち寄り、彼の地
で2週間ほど視察やら多士済々の人々との交流
やら懇談やら、結構予定が目白押しなんだとか。
精力的に頑張られるみたいです。それで昨日は
久しぶりにお会いしてきました。最後のことで
すし、私が持参したご馳走を拵げて、先生と同じ
ホテルにお住まいの海外駐在の銀行員の男性

の方をもお招きして、一緒に3人で和やかに、
かつ有意義な討論もできて、大層学ぶことの多
い一日でした。誠に『袖振り合うも他生の縁』と
いう諺をしみじみと実感された次第です。

実のところ、私はここ最近しばらく‘動
揺期’にあったように思われます。【タヴィスト
ック】での訓練生としていよいよ本腰入れてとい
うことになればなるほど、なんとも違和感やら葛藤
が募るわけでしたから、本出先生に今この時期
にここロンドンで出会えたことはなんとも有難いこ
とでした。そのような運命をおかしなものとも不可
思議なものとも思えます。なんと云っても異文化
の狭間にあれば、大袈裟に言えば疾風怒涛の
真っ只中でもがき苦しんでいるといった感じで、
当人にしてみれば至極危機的に思うものなの
です。彼のように年功を経ている人は或る種
‘羅針盤’ともいえる存在であったと言えましょ
う。下手にこちらの西洋流に洗脳されたものの見
方・考え方で日本を批判することを避けて、自
分が如何なる文化的状況に育ったのかを吟味
し、その歴史なりの軌跡を、そしてその独自性を
考察することが大いに必要なわけですね。否応も
なく、改めて自分が‘日本人’を知らないと思っ
てしまう。やはり核家族というものの弊害は、祖
先から受け継がれてきた意識なり、知恵なりが
断たれるということだと思ふわけ。実際に私らのよ
うに祖父母の居ない家庭に育ったものは明治・
大正がどんな時代だったのか、ぴんと来ないもの。
自分のルーツも知らずに、知らず知らずに西欧
化の流れにどっぷり浸かっていたということかも知
れない。此地で彼らと伍してゆこうと発奮するの
はいいけれども、己自身の戻ってゆくところも知
らないとしたら今更ながら怖いと思ってしまうの
。いつぞや本出先生にお頼みして禅関連の書物
を一冊買っていただいたのだけど、それも私には

何かしらもう歯が立たないシロモノに思えたわけ。それだってかつて日本人が一生賭けて分かつとしたことだとしたら、【精神分析】も同じく一生を賭するに値するものかどうか…。そんな迷いも出てきたりする。本出先生の世代からみれば、【タヴィストック】への私費留学などと、自分たちが決して夢見ることもなかったことを私が軽々と実現していることになるのだろうけど。それがいいとも悪いとも、どこでどう観念すればいいのか。本出先生にだって、それは訊けないわけなのです。答えがあるとも思えないしね。一つ、この時代の要請ということも考えられるけれど、時代の趨勢にただ流されたくはない。だから自分の立ち位置を模索してるというわけなのです。

現実には、時代が大きく変革しています。此地ではカラーテレビ、ビデオ、洗濯機、そして電子レンジはセンセーショナル(爆発的な人気)なのです。人々の生活の様式が次第に変わっていている。それも急激に…。果たして人々は幸せなのかどうか、それは別問題のようです。

つい先日のことですけど、ちょっと本出先生を介して知り合った或る方で、東京都の職員で福祉行政局にいらして、海外研修でロンドンに滞在中の方のお宅を訪問したの。ユキコさんという妹さんがいて、お兄さまと一緒に、まあ言うなれば‘賄い係’として同行してきたというわけなんだけど。借家の一軒家に他にも数名の男性の日本人が共同でお暮らしなわけ。皆さんとご一緒にコンサートに出掛けて、その晩私も手料理を持参していったのだけど、賑やかに皆でホーム・パーティしたの。つまりは日本食に飢えた男たちに大いに堪能させてあげたという次第。よほど嬉しかったとみえて、私のこと<才色兼備なんですね>とか、お世辞言われちゃいました。

それで一泊させてもらったのですが、翌朝に朝食をいただいて、それが、まあ驚いたの！そのお味噌汁の美味しかったこと。ユキコさんがお雑煮(お餅入り)とワカメ入りのお味噌汁を作ってくれたのですけど。それぞれその前の晩から充分おダシをこしらえておくんですって。昆布とか煮干しを水に浸しておいて、翌日煮込んでという具合に。いつもあんな手間の掛かることをしたことないでしょ、私なんて。「カツオ・だしの素」の話をしたら、ユキコさん、やっぱりあれはダメだって言うの。私は、ダメだってこと(味がね…)分かんないけど。ユキコさんのお味噌汁を飲めば、なるほど！って思うわけ。医療事務職とかだけど、今時珍しいタイプのお嬢さん(25歳)でした。ヘエーって感じて、頭が下がったわけ！ああいう手間隙掛ける気持ちの余裕が失われているのがつまりは‘現代’というものだろうなあと改めて思ったのよ。文明の利器もいいけど、ああいう手作り感のある味覚を失うのはむしろ悲しい。便利になると粗雑になるのとは紙一重だもの。それで、ユキコさんがそろそろ休暇も終わりかけで帰国するので、居残りの男たちがもうどうやってこれから食べてゆくか誰しもが悲壮な面持ちでシヨンボリしているのが可笑しいやらで、すごく同情しちゃいました。どなたも都のエリート職員で、おそらく出世頭なはずですけど、日本男児には自炊はどうも無理みたいだよ。

本出先生などは勿論「男子、厨房に入らず」の世代だから、やはり自炊が苦手なのは分かるけど。だからか、いつも私の手料理を喜んでくださるの。やはり私なんてまるで我流で、ユキコさんとは比べものにならないけど。先生は嗜好が全然難しくない方で、私が何を作ってもせっせと喜んで食べられるので、私も頑張るわけです。昨日私が用意した料理の献立は、炊き

込みご飯(貝・油揚げ・筍・えんどう豆・しいたけなど)、蟹餃子、白菜の一夜漬け(蕪やら昆布やら含めて)、そしてアスパラガスなどのサラダで、デザートは水羊羹でした。本出先生との最後の晩餐というわけで、気張って贅沢なものにしちゃいました。先生に講義代、払ってないしね。まあ、当分はこんなことすることもないでしょうし…。

私も最近やっと、少しずつ頭が明瞭になりつつあって、勉強の方もはかどっていると云えます。いつもの悩みは、セラピイの患者(子ども)をもっていると、その治療経過というか、進展如何で自分の進退(つまりは帰国の時期)をも見極めんならんとするわけで、自分の体が自分のものじゃないといったもどかしさがあります。今の生活の将来を改めて検討しなくてははいけません。日本で仕事をしたい気持ちは強いんだけど、自立するだけの力量が付いたと云えるのかどうか、もう少し考えるのに時間が要ります。ともかく両親にはいつも有難いやら済まないやら、感謝しております。

それから、お母さまの敬愛してらした『舞鶴共済病院』の総婦長さんの訃報を伺いましたけど、悲しいですね。生きているうちにやっぱり精一杯、喜んで有意義に生きたいものです。くれぐれもどうぞお体を大事にしてください。

かしこ 千鶴子より



1976年1月21日

お父さま&お母さまへ

此の度はサッチャンの二番目の子ども出産の件で私も大層やきもきました。予定日に必ず産まれるとは限らないものだけど、産まれてくる迄はやはりなんとも気掛かりなもので、つい国際電話を掛けてしまったような次第です。

朝早くお父さまを起こしちゃってご免ね。疲れていたのやないかと後で案じたようなことでした。ところで、こちらでは妊娠何ヵ月後かに胎児の性別の検査が簡単に出来るんですって。私が観察した乳児ペビの下に赤ちゃんが生まれるのだけど、4月出産の予定だけど、男の子なんですって。女の子やったら、もう1年通おうかと思っていたところで、私はちょっとがっかりしましたけどね。それから、そちらに何か出産のお祝いしてやりたいとは思っていても、女の子か男の子か判んないのはちょっと困ります。近所にベビー用品の店でセールがあって、つい勢い込んで行ってはみたものの、気候もこちらとは全然違うことですしね。何か選ぶのも自信がなくて、結局何も買わずに済んじゃったようなことでした。サッチャンもご苦労さまやけど、これ程皆に期待されて、果報者といえいいのか…。私もいずれ赤ちゃんの玩具でも見つけておきましょう。すっかり‘おばちゃん’気分なのです！

最近、日本人でいろいろな人と知り合い、一緒に食事をするとか、コンサートに行くとかの機会もあるんだけど。それぞれ滞在が限られていて、コンニチワ・サヨナラの繰り返しですから、時には溜息が出るのです。そういうこともあって、今年一年で帰国する気持ちになっているのです。日本へ帰ってからの仕事やら研究の基礎固めとしては充分な手応えを得たと思ってます。やっぱり日本での仕事には凄く意欲を持ちます。

コースで修了の体裁をとるのには【タヴィ】内で幾つかの子どものトレーニング・ケース(研修症例)を担当し、それぞれに個別指導を得なくてはならないの。そうなれば、少なくとも後2年は掛かることになるわけ。実際のところ、セント・ジョージ病院で持っているセラピイのケース

(症例)にしても、その問題の深刻のところをかんがみるならば、実際、ここ Tooting という地域的狀況が、ロンドン中央とも違って、貧困層が多いからでもあるけど、それぞれかなりの年月が掛かると想定されます(一応、満足したレベルに達するとすれば・・)。それも、近代化の代償としての社会の暗部と言うか、やはり人々の生き難さの皺寄せやら歪みやらがもろに子どもらの成長に表出しているということでもあるから、日本の現状もそれに向かっているようなこと、マコから聞いてますし。彼女は急いで帰ってくるな、じっくり構えて勉強して来いと手紙で言ってますけどね。確かに、こうした分野の開拓への期待ってのは高まってきていることでしょう。私も、その昔、京大の『心理教育相談室』で持っていたセラピー・ケースなどを振り返れば、その当時皆目チンプンカンプンで解らなかったことが今では多少なりともその意味が明瞭になってきて、目の前で子どもが語ってくれる「心」に一応の‘筋道’が読めてきているのです。ヘエー、こういうものなのかって、人間の心の奥深さというか、その不思議さには驚嘆するばかりなのです。つまりは、徐々に人間の‘無意識の言語’に精通し始めているわけなのです。これが、此地【タヴィ】での訓練の眼目なのですけれどもね。私の知り得たものを他の人に譲る機会はいつか将来日本であるでしょう。そのためには自分を鍛えて、励ましてゆかなくてはと試みてたり・・。日本へ帰れば、それで成長がストップするなどとは絶対思わないけど。此地でたくさんの指導者に出会い、そして学べるとすれば、まあ云えばずうっと楽な道だとは思いますが。何はさて置き、私はどちらでも良いという、どっちじゃなきゃなんということでもないような思いでいるのです。何と云っても家からの援助無しでは無理なことすし。それで夏に相談しに一時帰国することも予定として考えています。

ところで、此地での昨今の物価高のことすけど、私は独り身すし、大して遊興にお金を掛けないからか、なんとかやってますけど。例の送金の金額がそれでいいかって尋ねられましたので、お言葉に甘えてここで申しますけれど。実は分析料の値上げのことがずうっと棚上げになっているのです。例の石油危機の頃からずうっとインフレで、私の知る限り、分析料の値上がりはどうも必至のことらしくって、私は親に済まなくて言えないままでいましたけど、実際に相場は 6 から 7 に、それにもうすぐ 8 に行こうとしているとか。オッソロシイ具合です。私としては**教育分析**そのものにいろいろと批判はあるけど、この経験は有のと無いのとでは大違いだということは徐々に分かってきましたし。それで後もう一年はと覚悟を決めたのです。ちょっと歯の治療に似てるかな。痛いのを我慢してでも治療に通うことで、健全さを保ってゆくといった具合・・。

私の給料は、この頃定額 130 になりました。分析料は現在平均(1月) 130 で、もし 7 (1回)に値上がりすれば、平均月々 150 になります。生活費は 130 ぐらいは掛かりますけど。私も極力遣り繰りを考えますし。仕送りの件、可能な範囲を教えてください。まるで‘金の生る木’を人々がそれぞれ持ってでもいるかのような、この値上がりムードには何か不安を覚え、怯えがちです。それでも衣食住と何ら不自由しているわけでもないのはやはり親のお蔭と、いつも感謝しているのです。

お母さま、私の居る間こちらに来ますか？ロンドンはまだ気候が良くないのよ。いつか明るい南の国へ一緒に旅するのはどうかしら？お母さまの写真はテレビの上に飾って、いつも眺められるようにしました。立派に見えます！

いずれ又。 千鶴子より

.....



1976年2月18日

お父さま&お母さまへ

今日、2通もお母さまからたよりを貰い、ようやく安堵しています。とにかく待望の女児誕生というわけだから、サッチャンもさぞかし満足でしょうし。家族皆で大いに喜びに沸き立っていることでしょう。先日のお父さまの電話での声では心配することはない様子でしたし、安心していいと思ってましたけれど。あまりにも手紙が来ないので、赤ちゃんにどうかおかしいことがあるのかしら、サッチャンの出産後の体調がもしかして悪いんじゃないかしら、あれこれ頻りにやきもきして…。それもまったくの無駄な骨折りでした。女の子だと聞けば、つい可愛い服を買ってやりたいな、お人形とかもなんて、そんな‘おばちゃん’気分が募ります。潤ちゃんの時とは違った意味で、なんや頑張って何かしてやらんなんだろうと思ったりするのよ。お父さまが早速にお雛様をプレゼントしたと伺いましたけれど。喜びがいっそう増したでしょう。私も一緒に居て皆と大喜びしたかったなあと思った次第です。お父さまも時折へんてこりんやけど、一種独特の愛情の示し方をするわけで、だからまあ結構好かれるんやろなあなんて、ふと思いました。良かったじゃありませんか！

赤ちゃん、臍の緒が二巻きも首に巻きついてたんですって！危ないとこやったわねえ。サッチャンも苦労しても元気な子を授かったのやし、どんなに誇り高く思っていることやら。＜味方を作っておかんなんらん…＞と、いつぞや笑って言ってたけど。本当に！女の子で良かったね。我が家では家系からして子どもはポコポコ産まれてくるはず、子宝には恵まれているものと私なんて楽天的に信じているけど。なんと云っても、おめでたい限りです。

お二人とも、風邪は引きませんか？
こっちは大流行で、先月も谷口の奥さまから久しぶりにお電話でお声を聞いたのですが。1ヶ月余りも一家全員総倒れで寝込んだという話を聞かされて、私も無茶なことをしないようにと体調管理には気を付けております。まずまず食欲はありますし、健康で仕事が続けられることは何よりも有り難いことです。お父さまも無理なほど仕事量を引き受けずに、適当に体を休ませないといけませんよ。仕事があることはいいことですけど。何もむちゃくちゃな働き方をして金儲けしたりする必要は全然ないのですから…。親の脛かじりの私がこんなこと言うのも変かな？！

家族というものは本当に有り難いものです。最近マコがお母さまに大層優しくなったと伺いましたけれど、それも彼女の一つの成長の証でしょう。概して、家族であっても、子どもが成長するにつれ、年毎にバラバラに散る傾向があるのに、山上家ではますます絆が強まってゆくのは、それぞれが賢明だからだと思うの。人はそれぞれに違った使命に生き、仕事も違って、興味も違うってわけだから。肉親と云えども、互いに解かり合える間柄を保ち続けるのは至難なことでしょうからね。

私の方、給料のアップがもうじきあるかも知れません。夏の休暇に一度帰省することを考えています。銀行に蓄えが少しあるのをはたいて、それから1ヶ月以上分析がないので、その分を回してなんとか飛行機代をつくれないうのかと算段してます。とにかく一度皆に会いに帰らんとはいかんと思っているのです。さて、どうなることやら…。じゃあ又ね。 千鶴子より

.....



1976年3月17日

お父さま&お母さまへ

おたより戴いていたのに、ここずうとご無沙汰でご免なさい。佳織ちゃんのお宮参りも晴れ晴れと済ませたとのこと、結構でした。その折の写真が送られてくるのを楽しみにしていますからね。ところで、小包みは届いております。こしばらくは赤ちゃん誕生のことですっかりそちらに気が奪われていたものですから、日本から小包みが届くことなどすっかり失念していて、むしろびっくりしたぐらいです。思いがけない、いろいろなものにもう懐かしいやら嬉しいやら…。俄然里心が付いてたまりませんでした！送金の方も無事届いております。いろいろとほんとうに有難う！！

実は、こしばらく京大の大先輩にあたる齊藤久美子先生という方がこちらにお泊りでしたわけ。【京都府立大学】の助教授でいらっしゃるのよ。今回も、家主のミセス・ブルックにお心遣いいただき、私の隣の空き室を使っていごと親切におっしゃってもらったものだから、大助かりでした。私の時間の許す限り、彼女をあちこち観光名所にご案内できたわけですしね。日頃ミセス・ブルックとは和気藹々とうまくやっていますし、隠し事がないというか、なんでも気軽に喋りしてるせいか、ほんとうにいろいろと折々に便宜を図ってもらえてるわけ。勿論、宿泊代については齊藤先生が直接ミセス・ブルックにお会いなさって、相互で了解したわけだけど。なんだか、そうしたことも彼女にとっては異国での嬉しい出逢いの思い出の一つになったろうと思われるね。

そもそものがマコからの紹介ではあったわけだけど。齊藤先生は大学の研修休暇を利用して8ヶ月間ほどアメリカに滞在され、こちら

にはドイツ・フランスを経て、観光を兼ねてお越しなものでした。異国ならばこそとは云え、ものすごく互いに意気投合して実に愉しかったの。11日以降16日迄の此間の‘喋り過ぎ’、そして‘食べ過ぎ’の疲れが、今やどっと噴き出ている始末です。

此地ロンドンでは珍しくもというか、本出祐之先生は別として、日本人で傑出した人物に出会ったと云えましょう。私も大層学ぶところがあり刺激されましたし、齊藤先生もいろいろ私から聞くことで感心したり学んだりの連続で、日々がそれは有意義な二人だけの‘会談’となった次第です。昔からかなりの人物だと噂に聞いてはいたけど、その彼女を相手に互角に話をする私も相当に成長したことになりました。そもそも心理臨床の学会などでも名の知れた、学者肌で切れ者の評判高い彼女に気後れせずにモノを云えるってこと自体がやはり大したことなわけですから。どうぞ喜んでください！

私も今後ここに何年留まるか決心が付きかねているのですが。彼女の言にもあったように、＜急ぐことはない、熟して自立の時期を気長に待ち、努力してゆくことだ＞とは思うけど…。踏ん切りが難しいところです。私も日本のいろいろな方々が期待してくれているのは解かるし。実際に私自身に内容がなければダメだし。でもまあ、遅々たるものだとしても確実に進歩を遂げていることは今度の齊藤先生との‘会談’からしても明らかで、なにやら自信が持てたことでしたけどね。

それでね、嬉しいことに今回お届けいただいた小包みの品々が大活躍でしたよ。お蔭さまで、なんだか物が豊富で困るほどで、私っていわゆる‘果報者’よね。齊藤先生も今回そのおこぼれ頂戴で、秋田の藪筍やら京都の漬物やらを堪能して、まったく果報者やったって感慨

を抱かれて帰られたという次第なのです。これもすべてがほんとに両親のお蔭さまなのです。アメリカの滞在で洋食に飽き飽きしていたからでしょう、斉藤先生、私の料理の腕前に大感激でしたわけ。精一杯和食でおもてなしましたから。それで私に最後にお小遣いを随分と気前よく下さったわけなの。とにかく刺激的で愉快的な出逢いがあったということになります。私はどうやら大丈夫みたいです。どうぞご安心くださるよう。

では又。かしこ 千鶴子より



1976年4月2日

お父さま&お母さまへ

こちらは桃や桜の樹木があちこちの家々の庭やら街の歩道沿いにもあって花を咲かせていますし、確かに春の訪れは来てはいるのですが、まだ風は肌冷たいのです。

今朝、写真同封のたよりいただきました。佳織ちゃんのお宮参りもめでたく済んだようですね。やはり神社でのこうした宮参りの風景は珍しく、もう写真に眼が釘付けになりました。子どもが健やかに育つようと神仏に祈りを捧げる心のゆかしさに胸打たれます。家族の皆がいつもと変わらずに和やかに健康そうに写っていて、私も大いに心慰められました。

さて、帰国の件ですが、私も考えに考えながら、尚も答えを出しかねていました。こちらでの諸々の義理やら仕事上の責任やら、それと我が家の状況やらを突き合わせながら、さらには帰ってからの私の就職の見通しなどを考慮しながら、来春頃には総てが整理できて此地を引き揚げられるかなと思いついて来ましたが、実際の話し、幾らはしょっていても、私の

見通しでは来年の1月末迄には今の仕事、切りが付きません。帰国後職に就くとしても、とにかく日本ではすべてが4月開始でしょ。いざ就職活動をするにしても、事前の根回しというか、あちこちに顔出しして折衝するなど、相当に時間もエネルギーも要るでしょうし。そうした流れの勢いに身を投じるには何かしらまだ時期尚早の感じがしてならないのです。

お母さまのおっしゃることよく解かるのです。私も本音としてはずうっと来春迄は【タヴィ】でのトレーニングも病院の仕事も切りを付けてと覚悟はしてきたつもりでしたけど。それを可能にするためには、今や諸事万端がなんとも輻輳的で、もはや自分一人の一存では決まらない次第なものですから、はっきりどうするつもりと家へたよりを出せずにいるようなわけなのでした。

私は、お母さまの体を案じつつ、私がこういう状況にいる以上、職を辞められないと思っているのでしょうから、申し訳なく思っているのです。もうしばらくのことですからね。ご恩返しが出来るのはいつのことか。まだまだ先のことでしょけど。取り敢えずは両親には気持ちの上だけでも極力安心していただけるように、将来の私の身の定め方など、いつかその時期を狙って、大いに心する所存です。

帰国後、いつか将来私が落ち着いたたら、お母さまをどこへでも旅行へ連れて行ってやりますからね。日本国内でもヨーロッパでも…。そんな余裕のある身分になれるよう、私も大いに稼がなくてははいけませんね。あらまあ大変！とにかくどうぞ体をしゃんとしていらしてください。短歌づくりの方は励まれておいでですか？ 琴もお稽古を続けてやってはりますか？ お父さまの方には、来春迄には必ず切りを付けるからと、どうぞ宜しくお伝えくださるよう。かしこ 千鶴子より



1976年4月15日

お父さま&お母さまへ

こちらは今【復活祭(イースター)】の休暇を迎えようとしています。宗教的な意味での祝いよりも、人々は春を愛でる思いやら、暗い冬との別離でなにやら安堵しているような具合です。こちらではイースター・エッグといって、卵型した、いっぱい装飾の施されたチョコレートを食べるのですよ。近頃はどのお店でもそれらが華々しく並べて飾られており、店内は一段と明るく、賑やかに沸き立っているのです。それで先日ふと思いついて、まずまず中型ぐらいのイースター・エッグを1個買い求めて、そちらに送りましたから。それでも随分とでっかいのよ。5人分くらいはあるわけ。皆で分け合って愉しんでください。それから、日頃心に留めて家族にとあれこれ買ってあったものやら、人からのいただきもので置いてたのがあつたりなものですから、1箱段ボールにいっぱい詰め込んだわけなの。そちらに荷物が届いたら、さて何が出てくるやらとどうぞ楽しみにしててください。それから、いつでも迷うんだけど、お父さまにこちらの煙草を買おうかなと思うわけ。でも、英国では煙草の被害が公に警告されて、テレビでも禁煙の大々的なキャンペーンみたいなことに発展しているのよ。私自身もあつた煙にはどうも体質的にかなわん方やから、敢えてお父さまに送らんならんことないなあと思ったり。それにこちらの煙草はきついという人もいるしね。まあ、お父さまがイギリスからのチョコレート類をほくほく喜んで食べてくれている模様だから、なんだか私としてはそれも安上がりで助かります。

それから、いろいろと先月のたよりの中で質問してらした件についてですが。まず説明を要することは、サイコセラピストの訓練ってのは、

一種の技能訓練でして、職人にとってこれよしということは死ぬ迄言えないと同じようなもので、傍目からみても、これで卒業といえるような技術的境地は云々出来かねるわけです。その個人差はひじょうなるものですし。それをも尊重されなければいけないし。家元のお墨付きがあまり意味を持たないのがこの世界です。それでもそれぞれに「自立」の時期を迎えねばならないわけだけど、その早い遅いの違いがあり、或いは一生出来ない人もいるでしょうし。或いは別の流派(個性が強い場合は)を打ち立てるということもあるでしょうし、さまざまなわけです。私の場合、あと2、3年コースに留まれば、一応最終的に査問の結果、イギリスの【チャイルド・サイコセラピスト協会】の正会員に認定されることになります。その恩典といえば、給料がトレーニング中よりも多少増す程度ですが、肝心な点は‘開業’の認可というか、プライヴェートで有料の患者のサイコセラピーをすることが認可される有資格者になるということです。もしさらに此地に留まれば、それ以後は【タヴィ】系統の縁故にのっとって、後進の指導をする地位をどこかしらで得ることになるといった具合です。完全なる家元制度なのです。他にさまざまな異なった流派があつて(日本の生け花と同じ・・)、その闘争は「精神分析」に限ったことではないけど、歴史が長く、今後も尚のこと続いてゆくことでしょう。日本へ帰国してから、私は今自分が現在帰属している「クライン派」を頑固に堅持してゆく気持もなければ、日本の状況からしてそう出来とは思えないし。ここに一生留まる覚悟がなければ、今去るのが頃合として一番いいとも考えています。ずうっとここ3、4年見据えてきた問題意識というのがあつて、それを日本で発展させてゆきたいと思ってます。それで、証書を持って帰らないことで親への申し訳が立たないという思いは私の方には実はない

のだけど。やはり一応このようにお世話になって、このような成果やら収穫があったという証しに、後3、4年にして Ph.D.博士号を取るべき論文をまとめようと、その意気込みでいます。大体の構想はまとまっているのです。但し、私の今の実力がどのように認められてゆくか、つまりは日本の人々に活用されてゆくのか、それ程遠い先のこととは思えません。私は根からの職人で、サイコセラピストの仕事が好きですし、大學の先生になって教鞭をとるのは、するとしても何十年も後のことです。講演を頼まれればゆくかも知れないけど。でも、セラピイの仕事に専ら2、3年は没頭してからと思ってます。それ故、金儲けの方は期待できませんので、どうぞ悪しからず。その他、いずれまた話しますので。お元気で。

かしこ 千鶴子より



1976年4月20日

お父さま&お母さまへ

こちらは4日続きの連休です。【復活祭(イースター)】なのです。それが近頃珍しくもいいお天気で、私も朝起きるや、すぐ外へ出ます。太陽の光を浴びなきゃ損やというわけです。幸いなことに、ここの建物の裏庭の引き戸を出ると、目の前は広大な空き地になっているの。ここら近隣一帯の共有地ということらしい。それが日本でいう原っぱで、私の好きそうな雰囲気満ちていて、まるでご機嫌なのです。子どものための遊び場とか何もなし、腰掛けるベンチすらもないので、人々は全然利用しないのです。時折子どもがいたり、犬を散歩に連れてくる人を見かけたり・・・なのですが、殆ど誰もいないのです。このいいお天気だというのに・・・。タンポポやらスカンポやら、日本の原っぱと全然変わりませんよ。原っぱの外郭には樹木が植えられてあり、みごと

に成長しています。桜の木が4、5本あって、近頃のいい陽気のためか一斉に花が咲き誇っているの。誰もお花見客などいませんから、まるで私ひとりのために咲いていてくれるといった趣で、もうほんと嬉しいったらありません。

今ちょうど原っぱの真ん中でこのたよりを書いています。読むための本やら、飲み物そして送ってもらった大好きなあれのお菓子やらを持ち込んできてシートの上に並べ、もうばっちり日光浴してやるぞって勢い込んで、青い青い空の真下でで〜んと腰を据えてるわけ。なんだか、ここがどこやら分からない感じ！つまりは、こういうのこそが、異国であろうとどこであろうと、私が私らしく過ごせる時間といえましょう。てんとう虫がチョコチョコ草叢を這って出てきて、可愛いです！振り返って、私の誕生の地、秋田の片田舎でのことなど、あれこれ思い出したりしています。スカンポって、昔塩を付けて食べたりしたのに、今は手が出ません。それでも昔、私の幼少時の頃の懐かしい記憶のあれこれが、月日の経ったことも忘れて鮮明に浮かびあがってくるのです。庭先で蓆を敷いた上でままごと遊びしたとか、夕暮れ時に田んぼの畦で蛍狩りしたとか、そう言えば蚊帳の中に蛍を放したりもしたわよね。ああした一見なんでもない幸せを、これからの子どもは経験出来ないのだなあと哀しくなったり・・・。私も、そうした思い出があればこそ日本へ帰る思いを捨てずにいられるんやなあと感慨深いものがあります。いつか日本へ帰って、どこでもいいけれど、春の野原でふと安堵しつつ、ここは日本なのやなあと思ったりすることがあるでしょう。此地での生活も悪くなかったって思うかも知れません。いつでも「今」が一番私は幸せ」って感じがどうやら私にはあるみたいですから・・・。

ところで、こっちにも赤ん坊が産まれたのよ。ペピの弟で、この前そのお祝いに招かれてホーム・パーティに行ってきたわけなんですけど。例のわざわざ日本から届けられた立派な秋田の姫毬をお祝いに1個プレゼントしたの。そりゃ喜ばれましたよ。その折に珍しいガーナ式‘誕生の儀式’に立ち会ったのです。もう凄い傑作なの！名付け親二人が家の内・外にいて(赤ん坊は内・・)、それで一人が外から叫ぶわけ。＜出たいのか？この世は辛いのかでー、本当に出たいのかあー？＞って三遍も聞いて、赤ん坊が＜出たい、出たい＞って言って、＜そんなら出してやろう＞というわけで‘誕生’なんですってさ！そこでようやく子どもはセロムと名づけられ、彼ら一族郎党に一員として迎え入れられたというわけ！人生生きていれば、生まれてきたことを恨めしく思うこともあるかも知れない。でも親が勝手に自分を産んだというのではなくて、自分が自分の意思でこの世に産まれてきたということだから、人としての覚悟のほどが違って来る。これって知恵よね。ちょっとクスツッて笑っちゃうけどね。

それから、ペピのお母さんが面白いことと言ってましたよ。セロムの顔、まだしわくちやに縮こまっているのだけど、自分の年取った母親の顔にそっくりなんですって！ペピのことも、彼女を昔から知っている人に言わせれば、彼女の亡父に生き写しだって言うのですって。彼女は生粋のイギリス人で白人なのだから、それも妙と言えば言えるけど・・。いつしか混血のペピもセロムもそれぞれに自分の顔になってゆくのでしょうかね。そうした血統やら遺伝のことって、なんとも摩訶不思議なものがありますね。アフリカでは死んだ人が赤ちゃんの形で再び生まれ変わるというんだそうですけど・・。なかなか興味深いことです。

それでは又。 千鶴子より

.....



1976年5月3日

お父さま&お母さまへ

ここずうっとそちらからは音沙汰なしで、私は国際電話でもしようかなと思ってたところです。そしたら今朝、久し振りに手紙が来てましたもので安堵しました。そちらは気候が良くなって、庭のツツジの花も咲きかけとか、やっぱ我が家に勝るところはどこにもないってことですね。錦鯉たちも水の中で活発に動き始める頃でしょうし。やはり温かな陽射しってのは有り難いものです。近くの田んぼでセリ摘みはしましたか？

お母さまの方、病院での看護に追われている様子、なんと云っても、時間交代の仕事は格段に疲れるわけでしょうし。‘老骨’と云うのはまだ早いけど、やはり体を休めたいと思っはるんやろな、と私も常々案じているのです。そのうち私の方に余裕が出来たら、温泉巡りなどに連れて行ってやりたいと思ったりしてます。

それでふと思ったのよ。先日読んでいた論文で見掛けただけで、1800年代のヒステリーの女性患者に暗示療法をも兼ねてですけど、気持ちを鎮めるのに「マッサージ」と「温浴療法」を使用してるのよ。そういうのってごく上流家庭の一部分の人しか恩恵に与らなかったよだから、その点で云えば、我国日本では昔から庶民の末々まで、「マッサージ」とか「湯治」とか行きわたっていたわけだから、私は改めて感心したのです。「からだの保養」ということと「こころのストレス緩和」とがうまくドッキングできてるわけね。

さらに気付いたことがある。この国には子どもが親の肩を揉むとか、白髪を抜くとかの習慣が全然ないのだけど。皮膚感覚で触れ合うことをタブー視する嫌いがあるわけね。考えてみれば、変なところで我慢しあうもんやなあっ

て気がする。‘家族が揃って川の字になって寝る’なんていうのはこちらでは有り得ない。幼い頃から自分一人の柵で囲われた子ども用ベッドに寝かせられている。そのせいか、こちらの子どもたちは指しゃぶりの習癖が治らない。それ以外に自分を慰める術がないというか、寄り添うべき対象が手近にないところで、その空漠として孤独感に耐えてゆくしかないわけ。親子共々、いたわりあいを表現しあうことは大切なはずですし。そうした気持ちを必要以上に抑圧し、親子が互いにギシギシと睨みあっているのは見てて衰えばかりです。例えば、家主のミセス・ブルックなどはごく真っ当なインテリで、決してスノッブじゃない(気取りとかエラぶったところがない)し、極めて温厚なご婦人だけど、もしもご自分の息子や娘が甘えてくるようだったら(例えば家に居座るとか)、玄関の扉から蹴りだすって言うておいでだから、まあ大変なものです！子どもを成長させて、一人前にして世に出すことへの親としての責任感やら気概がまるで違うわけ。おそらくは彼らの子どもの躰けというのは、万事日頃からくそれはあなた次第よ(It's up to you！)>と言って聞かせているんでしょ。それに親だからといって子どもに自分を押し付けないし。子どもに頼るなどというのは論外なわけ。我々日本人には到底真似できないところです。例えば私の直属の上司の Mr.ジョン・ブレンナーのご子息たちのように、真っ当なミドル階級の子弟たちは万事[自分次第(It's up to me！)]をわきまえているせいなのか、どう見ても素晴らしく‘おとな’というか自立して見えるわけ。どっちがどっちとも言えないけれど、時折とてもとてもかなわない、負けたあ！と感服することがあります。彼らに倣うべきだとも一概に言い切れないけど、敢えて言うなれば‘(人として)出来が違う’ということで、私なんか子どもっぽいついて、ちょっぴり悔しさを秘かに抱くわけ。

何と言っても、文化の違いとは大変なもので、‘信条’やら‘常識’というものがまるで‘逆さま’ということがある。外人と結婚することは決して無謀ではありませんけれど。なんと云っても、苦勞だということは確かでしょう。なんたって、他の民族に対する嗅覚的な嫌悪感っていうか、違和感は簡単には拭えないものです。それはお互いさまというわけだけど。此地ロンドンに私が永久に留まりたいと思わないのは、やはり折々に感じるころの、この‘逆さま’の感情に苦しめられることがあるからですが…。独り身ならば尚更に、それは‘疎外感’にもなり、下手すれば‘迫害意識’にまでも募ってゆくわけで…。やはり将来は日本で同胞と交わって生きてゆくことを飽くまでも私は選ぶだろうと思ってる。つまりは、どこまでも‘単独者’として異国で生きるには自分があまりにも不徹底で、そうした‘甘さ’加減を苦く噛み締めることがあったりして…。それは、親への恩義に報いようとする、人一倍強い親思いの情とはまた別のところで私の悩むところなわけです。いろんなことがなかなかうまく清算できずにいると言えましょう。いろんなものを見た、それで私はどうするかということだけだね。おそらくは時間が解決してくれるかしらね。帰国後の課題として残しておきましょう。

とにかくにも、いろいろと悩みは付きものだけど、それもこれも両親がいつも私を信じていてくれて支援してくださったお蔭です。ここに至ってようやく私も自分の足元を見据えられるようになったと云えましょう。親との絆を大事にしながらも、自立したひとでありたいと思うのは決して矛盾しないとは思うけど。何処に居ようと己自身の立ち居地を見つけられるようにと願っております。どうぞお体をお大事に。かしこ 千鶴子より

.....



1976年5月16日

お父さま&お母さまへ

こちらは気候もやや温かになり、樹木の葉の茂りかたも日増しに勢いづいてゆく模様です。日本はそろそろあじさいの季節になるのでしょうか？私は休みの日は出来るだけ戸外に出るようにしてます。裏の原っぱを散歩したり、花やら木の枝を折ってきては部屋に飾ったりして楽しんでいます。最近の多忙さはひどいもので、1週間（月曜～金曜）があつという間です。休日が2日連続して周期的にあるのですから、お母さまの勤務よりは楽なはずですけど。1日に3箇所も4箇所も場所を変えて、教育分析やらセミナーやら観察やら病院やらとスケジュールに追われているのですから、ほんとにたまりせん。（マコからたよりが全然ありませんが、彼女も忙しくしているのでしょうね。）

しかしながらここに至って、自分でも随分と仕事の上で進歩してきているのが解かりますし、やる気充分といったところです。セント・ジョージ病院のスーパーヴァイザーのMr. ジョン・ブレンナーも感心してくださって、教え甲斐があるように思ってくれておいでらしいです。先日、私がもう一年で帰国を考えていると彼に告げたら、ひどく残念だっておっしゃってました。けれども、いろいろと家庭の（個人的な）事情もあることだし、誰しもこの件に関しては無理強いできることじゃないのは当然で…。私も、まだはっきりと決断出来かねているのだと彼に言っておきましたけど。でも、ジョンの気持ちを推し量れば、私としてもとても複雑な心境なのです。

実は、病院内での移動というか、【タヴィストック】の先輩でもあつた、同僚のジェニファーが去り、同じくアメリカ人のキャロラインに引き

継がれたのです。どうやらジェニファーは結局のところ【タヴィ】とは反りが合わなかったみたいなの。30代半ばですし、病院内でも猛烈にケースを増やして、随分と精力的な印象ではあつたんだけど。それでもセラピー筋というわけでもないらしく、腰が据わらないところがあつたの。キャロラインは私と同期だけど、【タヴィ】と並行してロンドンの或大学で聴講生になっていて、いずれ博士号の取得に必要な単位をめざしているわけ。アメリカではそれが必須なんだとか。その上に厄介なことに、実は彼女は英国人の恋人と付き合っていて、その関係がギクシャクしてるみたいで、もう一つ腰が据わらないわけ。彼との関係にアメリカにいる両親が難色を示してるんだとか。その理由というのが＜宗教 religion が違う＞とのことで。ユダヤ系だからかと一瞬私など思ったんだけど、よくよく聞けばその‘宗教’というのが「精神分析」のことらしいのよ。カリフォルニア在住の両親共が精神分析家なんだそうで、キャロラインも当然それに倣うべく、敷かれたレールにあるってわけ。いつぞやパーティの席で恋人という人物を見たことがあつたけど、ちょっと一見取り澄ました感じの男で、おそらく彼の眼には私ら【タヴィ】の人間などは概して‘異様’に写ったかもしれない。彼がキャロラインと付き合うために「精神分析」を受けるなどというのは有り得ないでしょうし。だから彼女は板挟みってわけ。いずれにしろ彼女ら、アメリカの女性たちって、どこに居ようとも悪びれずに我がもの顔でいられる逞しさがあるから、私などが心配することはないんだだけだね。ことMr.ジョン・ブレンナーに関していえば、彼女らは私ほどには切実に彼を必要としていないのは明白で、私などは毛頭自信もないし、臆病で慎重ではあるけど、でも独特に思い込みの激しさがあつて、一途になって打ち込むだけの粘り腰があつて、セラピストとしてのセンスだけでもない、それをジョンは

気に入ってくださってるみたいなの。つまりは「鍛えればモノになる」ってことかな。週1回病院内での外にご自宅でも時間を割いてくださる。料金なんてほんとにほんのわずかな‘寸志’程度で。＜ただでもいいんだ＞とも彼はおっしゃってる。【タヴィ】の他の訓練生に比べてみて、誰しもが私ほどには恵まれていないと思うほどなのです。

先日【タヴィ】での臨床症例セミナーで、私が病院で持っているセラピーのケースの報告をしました。ひじょうに素晴らしいケースという評判でした。それでもう一度来週その続きを発表してくれるようにと依頼されているのです。どっか私は他人に真似の出来ない、何かがあるらしいわよ！いちいち Mr.ジョン・ブレンナーの指導に合わせているわけじゃないの。どちらかと言えば、私が症例の記録を逐語的に語るのを聞いてくださりながら、折々に彼が自由連想的に心に思い浮かんだあれこれをお話くださるだけで。それがいつしか知らぬうちにケースの‘筋道’を読めるようになってゆくわけなのよ。まるで無理がないのが実に有り難いです。どこかしら私の性格として従順(docile)ってところがあるのを危ぶんでいたのだけれど、いつも「ここか？これか？」といった己の見定め方には慎重だし、間違いはないと思ってる。依存心だけでは相互の信頼関係など培えないものですから…。

それから、先月ひょんなことで【タヴィストック・センター】の精神科医たちのコースに通っておいでの或日本人の方が訪ねてきまして、いろいろとお話したのです。彼もロンドンの或病院で幾つか成人の患者さんを診ていらっしやるのかで、大層面白い話になりましたけれどもね。一年半こちらに滞在してらして(家族とご一緒とか)、この夏は日本へ戻られるとのこと。その折も、私が彼に話したことがひじょうにたになっ

たって感謝して帰りはりました。それでつくづく思ったことは、自分が勉強したことが役に立つという手応えやら、相手の考えをより明確化させてやるのを助けられる事の嬉しさやら、これってなんと云っても素晴らしいことなんだという自覚です。云うなればメラニー・クラインが唱えるところの【認識愛】ってやつだけど。分からなかったことが分かるって素敵なことなの。それは、私自身が自分のスーパーヴァイザーやらアナリスト(分析家)やら、コースの教官たちに対して、時折感謝を込めて思うことなのですけどね。後1, 2年経てば、私も他人を指導できる立場に落ち着けるかとも思うのですけど。どっちかと云うと、私はそれに関しては慎重すぎるぐらいのためらいというか、むしろ早くえらくなっちゃあかんとか、じつくと自分を肥えさせんといかんといった思いがあるみたいです。それもやはり次女に生まれたせいかしら。長男や長女やらの得てして抱く‘旗揚げての大将’になることへの疑いのない自信に欠けているのやら、億劫なのやら…。それでも、さまざまな人たちの期待を思えば、やはりそこらへんを整理して、頑張らんなんらんといいふうにも思っているのです。両親にはいつも感謝しています。今のところでは、【タヴィ】のコースの教官方ともよく相談して将来のことを決めようと思ってます。親への経済的負担を少なくするために、もう一つ職が持てれば、多少とも明るい見通しが持てるかと思ってみたり…。誰もかつて望みながらも実現しなかったことを着々と実行させているのですから、誰の眼にも驚異なのです。そこら辺のことを考えると、自分の一存で我が身を決められないような、すごく重たい気分なのです。

ところで、山芋入りの蕎麦は最高に美味しかったです。日本の夏の食事がとても懐かしいです。では又。元気でね。 千鶴子より

.....



1976年6月8日

お父さま&お母さまへ

お元気でしょうか？そちらは温かな気候が続いているのでしょうか？こちらは夏服を着たらいいのやら冬服を着たらいいのやら判断の付かないような、変動の大きな天候が続いています。ごく普通のお宅の庭にスズランが咲くのですから、ほぼ全般的に湿気ているのが分かるでしょう。つい先日の夕刻、上司の Mr. プレンナーのご自宅に個別指導を受けに行った折、裏庭の奥まった一角にスズランが咲いていて、それを切り取って花束にしてくださったのよ。そのかぐわしい香りにふと、嬉しくも懐かしい家族の記憶が一つ甦りました。昔々北海道の美瑛の草原に家族で訪れたことがあるでしょ。スズランが咲き乱れる、なだらかな丘陵を、花を摘みながら駆け回った幼き日のことを思い出していたのです。

ところが急激にここ2, 3日ロンドンには真夏日となり、暑さでもうグッタリなのです。職場には地下鉄で1時間の旅ですから、たまりません。飛行機の騒音がいつそう耳障りで、困ります。

さて、お母さまも病院では風疹で子どもたちがやられたとのこと、大変だったでしょう。病気をすれば、小さい子どもはよけいに母親を独り占めにしたく思うし、心細く思うやろしく肢体不自由児やったら、特に・・・体が思うように動かないというのは本人も看病する方もしんどいことです。お母さまも家に居る時ぐらいはどうぞ体をゆっくりと休めてくださいね。

私もそろそろそちらに私が送った荷物が届く頃やろなと思っていたのです。無事に届いた様子でほんと良かったです。皆に喜んでもらえ

た模様で私も嬉しいです。例の卵型の「イースター・チョコレート」は壊れてませんでしたか？甘党のお父さまが喜ぶやろなあとって送ったのですよ。

さて、私の方も、いろいろと帰国後の将来について設計プランをあれこれ練りながら、頭を痛めておりました。話を聞けば聞くほど、日本の現状（私たちのやっている分野の仕事）の難しさを思い知らされ、果たしてどのようにその中へ復帰可能なのか、不安が募る一方なのです。日本での状況視察が一度なりとも最終帰国以前にぜひとも必要と考えた次第です。

ところで2週間後の話ですが、慶応大学医学部教授の小此木啓吾先生がひょんなことでロンドンにお見えで、私に会いたいとのご連絡がありました。小此木先生ご夫妻はなんと77歳と70歳というご高齢のご両親をロンドン見物にお連れしていらしゃるのですよ。凄いわよねえ。びっくりするやら感心するやら。羨ましい限りなの。あの方は私の将来にひじょうに期待を掛けてくださっているご様子で、わざわざ論文を送ってくれるやら、「精神医学事典」つてのを（1万円もするの！）送ってくれるやら・・・私も彼が此地にいらしたならば、将来のこと充分にお話をするつもりであります。日本へ戻ったとしても私はまだまだ若輩者なわけですし、ご指導を仰げる方々を身近に確保しておきたい、それが就職の絶対条件の一つです。その点をぜひ慎重に考慮しなければと考えています。小此木先生とお話ししながらも、そうした点での感触の有無を実際に確かめてみたいと考えているわけなのです。

【タヴィストック】の教官方も、私が後1年というトレーニングの期限を設けたので、それに合わせて考えてくださる旨の話し合いも出来

てますので、ここであと1年有効に出来るだけの
機会と人を利用してと考えていますので・・・。

そういう次第ですので、やはりどうしても
今夏は日本へ一時帰国し、日本の現況をし
っかりと見てこなくちゃという気持ちには変わり
はないのです。お母さまは、チズコにまた行かれ
ちゃうという思いで厭だとおっしゃるけれど、それ
も克服することが肝要です。無論お金のことで
ご厄介になるのですから、私としては願います
としか云い様がありませんけれどもね。

かしこ 千鶴子より



1976年6月21日

お父さま&お母さまへ

おたより、いただきました。お母さまがず
うと体の具合が悪かった由、私などは遠くに居
て、何もすることが出来なくて、ただ心配してい
るだけではなんともはがゆいことです。一番迷惑
やら世話を掛けている私がそういう具合なのだか
ら、どうも申し訳が立たないとはこのことでしょ
う。マコがそれでも優しくしてくれたとのこと、私
も一安心です。やはり年を経ると、若い時の気負
い（親から独立せんなんらんといい思い）もそれ
程でもなくなって、切実感が薄れてゆくものなの
だと考えられます。和解とは無理なくおこなわれ
るのがいいのだと思われます。私も妹として、彼
女とは将来どのような関係になるものやら・・・
いずれ私たちは「山上姉妹」と言われて心理臨
床の世界では有名になるのは必定やし。それな
らば、お互いに高めあえる関係をじっくりと育
ててゆかねばという思いがするのです。

さて、小此木先生ご一行は18日の
夕方こちらに到着なされました。私は4人分（ご

両親と奥さまそして先生）のお弁当を持参して、
ハイパーク近くのホテルに赴き、ご挨拶に伺い
ました。いつもホテルのレストランは満員なのを
知ってたし。長旅の後ではお疲れで外へ出る元
気もないだろうと思ったもので・・・。

ヨーロッパを廻ってらして、そろそろ日
本食が恋しい頃だというわけで、皆さんすごく感
激して下さった由です。やっぱり私の思った通り、
先生のご両親はお疲れで、外へ出るのも億劫
の状態だったとのこと。私もこの1週間、くる
くる舞いの忙しさでしたけど、結局出来るだけ
のことはしたのです。それも喜んで下さった由で
すし、安心したのです。19日の夜、先生だけお
一人で私の下宿先にお越しで、一緒に食事を
しながら12時過ぎまでお話ししたのです。私の
将来の件については考えをいろいろと出し合
いましたが、精神科（病院）ではいづこも、心理
職の人をあまり入れたくないという排他的風潮が
一般的にあるのですって。実際のところ、心理
職の人の方がより真面目に深く勉強している
ということも確かです。私も自分の身の置き所
を慎重に決めねばならないと思った次第です。
それで夏、一時帰国した際、慶応の精神科の主
だった人たちと会合を持つ手筈を決めました。
顔合わせ程度ですが、それでも状況は一応分
かることと思います。先生ご自身としては、未
来の設計がいろいろありで、その中に私を入れて
下さっておいでです。私としてははっきりとした返
事はしておりませんが・・・。例えば、「家族精
神医学」というシリーズの本が出るとかで（先
生が編集長なわけですが・・・）、その一部分を担
当して欲しいという申し出です。特に乗り気じゃ
ないのですが。書いたら面白いことが書けそう
ですし、結局承諾すると思います。実際のところ、
その他いろいろな項目を並べても、それに付いて
本当に書ける人がいないと嘆いておられました。

それからミセス・クラインの全集の翻訳も、【クライン派】というのは私が日本では一人なのですから、私の方に当然お声が掛かってくるわけなのですけど。今のところ、翻訳に時間を掛けるのが惜しいし、興味はこれこれだって話したら、先生は笑って、それじゃあ将来は私が1冊まとまった本を出版することになりそうだから、その際はお世話してもらっておっしゃいました。そういうわけなのです。7月の末には、京大の大先輩の一人、広島大学教授の鑪幹八郎先生もロンドンにお見えです。それから大阪・京都近辺ではお名前がよく知られておいでの斉藤久美子先生も私のことを心に留めておいてくださっていますし。この際いろんな方々から情報を得て、見るべきものはしっかりと見てきたい心算でいるのです。

帰国(休暇)の件については、いろいろと家族の者に面倒を掛けるでしょうけど。相済みません。飛行機の切符の手配をすぐします。8/1～8/28 ということになるはずです。小此木先生が、例のお母さまの作った歌が書かれてある色紙の壁掛けをご覧になられて、その歌を読みながら、どんなにご両親は心配しておいでしようとおっしゃってましたよ。先生は中学生のお嬢さんがお一人いらして、そのうちアメリカへ行くなどと言い出さないか、内心ひどく心配しておいでなのです。親っていずこもそうなのかしらね？！

ではいずれ又。かしこ 千鶴子より
.....



1976年7月12日

お父さま&お母さまへ

前略 送金していただいたのは総て届きましたので、ご安心ください。私の方、あと3週間で、休暇が始まるので、やれやれの感です。それでも日本での予定を思うと、あれやこれやと

4週間が短すぎる嫌いがあって、今からなにかと気忙しい思いをしています。

東京での「慶応大学医学部精神科」の人々との会合は、やはり20日ということにしました。単なる顔出しのつもりでいましたら、向こうは講演をしてもらうつもりで待っているものですから、私も言うべき事柄を日本語でよく喋れるようにするためにも、日時を延ばした方がいいと思っています。面倒のようですが、気持ちはその方が落ち着きますし、ゆっくりと京都・大阪・東京で就職できる可能性のあるところを探索するつもりでいるのです。詳細は、舞鶴に着いてから一緒に計画を立てたいと思っています。おみやげの品々はほぼ買えました。やはりこちらのお菓子類などがご近所の皆さんにはいいと思っています。

それじゃあ8月2日にお逢いしましょう。

私はそれ迄、仕事を片付けるつもりですので、忙しくすることでしょう。いずれ又。千鶴子より
.....



1976年7月24日

お父さま&お母さまへ

今日は24日で土曜日です。あと1週間で日本へ出発という差し迫った思いは全然なく、おかしな具合です。たった4週間なんて短いあと今から不満が出るくらいですけど。友だちには一応知らせたけど、私の方からわざわざ出掛けてゆく時間的余裕がないので、海水浴がてら舞鶴の方へ遊びに来てくれるように伝えたのです。でも、お盆も過ぎれば、海も荒れるでしょうし、どうなることやら。日本の気候は今どうですか？家の応接間にはルーム・クーラーが付いたのだったかしら？今から日本の暑さにはゾットする思いです。英国の薄暗いジメツとした寒々とした気候が恋しくなって帰ってくるんじゃないかと可笑しくなります。

ロンドンの突発的なバカ陽気も、ようやく落ち着く気配で、やや涼しくなってきたところで、先日、**鑪幹八郎**先生がお越しでした。パリでの『国際心理学会』への途中ロンドンに立ち寄られたのですが、偶然にも私の下宿に部屋が空いていたので、またまた家主のミセス・ブルックにお願いして泊まっていただきました。3泊でしたけど、私も仕事があったりしたので、おもてなしにあれやこれや結構忙しい思いをしたのです。2日目はもう一人の若い精神科医(日本人)と三人で晚餐を共にし、3日目はセント・ジョージ病院の私の同僚(ソーシャルワーカー)が鑪先生と私とを夕食にわざわざお招きくださったり…。たまたまお茶の時間にお喋りしたら、ぜひともごく普通の‘ユダヤ人家庭’をこの際に経験していただきたいとあちらから申し出があつてというわけ。家族揃っての慎ましくも温かいおもてなしをいただいたのです。そうしたわけでここ数日、あちらこちらと俄然目まぐるしく賑やかなことでした。

さらには、パリへ出発する直前に、鑪先生の念願であつた Prof.フロイドの墓参をも済ませられたものだから、先生は随分と満足して帰られました。それが傑作なの！【精神分析】の創始者であるフロイドの墓詣でというのは日本人にとっては全然違和感がないのですけど、こちらの人ってそうしたことはさっぱり頓着しないわけ。だから身近な誰彼にフロイドの墓がどこにあるのかと尋ねてもさっぱり要領を得ないということで、仕方なしにわざわざフロイドの娘のアンナ・フロイドが主宰する【ハムステッド・クリニック】に直接電話して問い合わせたわけ。それがあちらもさっぱりで即答できず、もたもたして後ようやく返答があつたという始末だったのよ。それでもようやくに【ゴールドーズ・グリーン墓地】へと一緒に例の赤い二階建ての乗り合いバスで繰り出し、どうにかフロイドの墓を見つけたというわけだから、

もう安堵しました。鑪先生は至極お喜びでした。私へのお礼って、40ポンドも封筒に入れて置いていってくださったのよ。後で計算違いして、たくさん上げ過ぎたって思うんじゃないかしらって、ちょっと内心慌てちゃいましたけどね。齊藤久美子先生とも違うけど、またまた優秀な我が先輩からのガンバレ！の声援をいただいたということになります。日本における臨床心理学の研究者というものの実態、そのさまざまな困難について伺ったわけでしたから、帰国後私が日本で期待していいこと・期待できないこと、あれこれと吟味するいい機会に恵まれたということになりましょう。でも思うに、ただロンドンの【タヴィ】に私費留学してるというだけで、何か特別視されてるのとも違うでしょうけど、日本に居ればすれ違って終わってしまうだけの関係が、案外異国ならばこそで、なんら業績もない若輩者の私でもこうして優秀なる先輩諸氏と対等に親密にお話が出来るということがちょっと面映い気分でした。誠に有り難いわね。‘人脈づくり’の必要性なんてまるで念頭になかったけれど、帰国後心もとない自分が‘迷子’にならないためにもおそらく先輩諸氏の後ろ盾を頼みにするのが賢明でありましょう。

最近の私の仕事はますます上首尾の状態です。日本ではどうもあちこちで私の名前が知られ、人々の期待が増すにつれて、私もいっそのこと、将来の見通しやらトレーニングの今後の経過について慎重に考慮することが重要だと考え始めているのです。

日本でいろんな人と話しをしなくてはならないというわけで。さてどうなることやらとも思うけど、なるべく家に戻ってからは庭でぼんやりと池の鯉を眺めたり料理作りに専念するとか、リラックスして日々を送りたいものです。それではもうすぐね。お会いしましょう。かしこ 千鶴子より

.....



1976年9月1日

お父さま&お母さまへ

30日の夕刻、こちらロンドンに無事到着しました。帰りの飛行機は、往きのより多少楽でした。ただ寝てるのも退屈なので、羽田の空港ロビーで小説類を買って、機内で2冊読破して、結構気分が紛れて良かったです。食事でも往きのよりずうっと良かったし、慣れてみれば、愛想がないのもJALのようにホステスが振袖姿でジャレジャレされるよりはいいかも知れないと思ったようなことでした。時計を眺めては、今頃はお母さまが本荘の伯父ちゃんを京都駅で見送っている頃かなとか、そろそろもうお父さまが「東舞鶴駅」にお母さまを車で出迎えに来ている頃かしらなどと、我が身は遠く隔たっているのに、まだまだ家族と一緒にの感覚が抜けないのです。

此の度は思いがけず、本当にタイミングよく、秋田からわざわざ西本願寺詣でに本荘の伯父ちゃんが出向いてくれて会えたことは私にしてもすごく嬉しかったです。私の幼少時に一時預けられていたわけだから、やはり懐かしい人なのです。年の功というか、彼からいろいろと珍しくも愉快的話をたくさん聞けて、愉しかったですね。そして何よりも、グルメのマコが気を利かせて手配してくれて、鞍馬の「美山荘」に家族皆で一泊できたことがどんなに嬉しかったか！会席料理の素晴らしかったこと。摘み草の天麩羅やら胡桃豆腐やら…。どのお料理もあまりにも繊細で、イギリスですっかり味覚が粗雑になった自分にとっても恥ずかしい思いがしたのです。ロンドン留学なんて、全然ちっとも威張れないって…。京都の山奥の鄙びた料理旅館で眼にするもの・口にするもの総てから日本独特の‘美意識’のシャワーを浴びたようで、忘れ難いです！

さて私の方、下宿に帰ると、ミセス・ブルックはまだ夏季休暇中で不在なのですが、息子さんが留守番をしていて、スーツケースを上まで運んでくれました。奥さんからチョコレート1箱、「お帰りなさい！」のプレゼントが置いてありました。カーペットも新調してくださっていて、私の部屋はぐんと見栄えがします。お母さまから貰った大きな鈴は早速に私の部屋に飾りました。少しはご利益があつて、金が貯まるかも知れませんか？！やれやれ、ここでの日常が戻ってきます。

羽田の空港のロビーから、小此木先生には電話でご挨拶をしました。総てに亘って、此の度の一時帰国は大成功だったことを感謝しました。向こうも喜んでくださっていました。今後じっくりと構えて、トレーニングを終えさせることでしようねと言ってらっしゃいました。私も実のところ、安心しているのです。先生は1年後よりも2年後の方が日本での受け入れ態勢はより良いということをおっしゃいました。どういうことなのか詳しくはお話が出来ませんでしたが。東海大学医学部教授の岩崎徹也先生が牧田清志先生（主任教授）の後を継がれ、相応の権限を持たれるためかと推測されましたけれども。まあ体勢上、時期が熟したところで迎えられれば、それだけ私の苦労は少なくて済むわけです。要するに、急いで帰ってこなくてもいいということなのでしょう。今後の1, 2年は、それこそ‘実りの時期’で、皆さん方（日本の）の期待に応えるべく頑張らなくてはと改めて思っております。

お母さまには滞在中、たくさん散財させてしまいました。私なんて今でも、あれも美味しかった、これも美味しかったなどと記憶を反芻し、喜んでおります。よっぽど美味なるものに飢えてたんですかね。最後に食べた京都河原町

の天麩羅やの刺身は幾らでしたか？すごく上等だったわねえ。あんなものでも平気で注文して食べられるのだから、口が奢ってきたんやなあと、ちょっと怖くなります。ロンドンに戻り、今のところ又前のように、こっち風の慎ましい、味気ない食生活に舞い戻ってますけれども…。《郷に入りては郷に従え》で、それで格別不満なわけでもありません。今日が仕事始めて、元の日課に戻ただけで特にどういう感激もありませんが。一度日本に帰ってみての自信はそのうち仕事の上に反映されることでしょう。

ところで、機内で読んだ「石川達三」の『夜の鶴』という本は面白かったですよ。嫁にやろうとする娘をもった父親の心境についての本でした。お母さまは【生長の家】の書物を読まれて、御教えによく従おうとしておられますが。私はもっと画一的ではなく、多面的に人生の複雑さ・困難さを教える文学を読むことがお母さまには必要だと思われます。「石川達三」は勧めたい作家の一人です。「有吉佐和子」もいいです。文庫本で安く手に入りますし、文学を学ぶことは人生を豊かにするはずです。夜勤の折も退屈しないでしょし。文学を通して、自分の人生を他と比較したり、客観視したりできますし。それは必要なことです。

私は、【生長の家】は勿論いろんな意味で真理を突いているとは思いますが、あまり総ての物事を突き詰めて自分の行為なり感情に結びつけて考えると、えらくしんどいことになるような気持ちがします。そういう点でなんでもそうだけど、宗教から学ぶことはあっても‘脅かし’を受けないように、もっと自由な気持ちでいて下さい。皆が皆、善人にならんとこがまた世の中の面白いとこなのかも知れませんし。あまりに教え

に従って画一的になり、教祖谷口雅春師の言うことを一言一句違わないように喋れる種類の人が育てられるだけじゃあ、宗教の意味は死ぬと思いました。久し振りに道場を訪れて退屈したのは、人々が全然新鮮な抱負を持たず、7、8年昔と言ってること、その調子がまったく同じだということです。文学は、そこから道徳やら、事の是非・善悪を見つけようとする人にはいい加減に思えるかも知れないけれど。いろんな人が居ていいんだってことで、その複雑怪奇な人間の気持ちを多視点的に知ってゆくというわけだから、むしろ面白いと、私は思うのですけどね。

ふと思うに、むしろお母さまなんて、もっともって本格的に短歌の道に精進されたいいのかも知れません。自分の中から出てくる考えやら情緒が本当に勝負どころです。将来いつか短歌集を出版できるように、多くのお作を生み出してみてください。期待していますからね。

将来のことは私に任せて、安心して今の時を十分に生きてくださるように。此の度はお蔭までいろいろと誠に有難うございました。

かしこ 千鶴子より

.....



1976年9月6日

お父さま&お母さまへ

ロンドンに帰ってみますと、気候はもはや冬になっていました。カンバツやら異常気象の暑さの騒ぎはまったく影を潜め、ビショビショ雨降りの多い、どんよりとした寒い日々です。慌てて冬ものの衣類を取り出しました。お母さまに買ってもらった夏服は来年迄押入れに仕舞っておくしかありません。せつかくなのの人に覚えてもらうわけにもゆかず、とても残念なの。

私は以前の日課通りの日々を送っております。それ程の淋しさも感じず、別に不満も不自由も感じずにいますので、安心してください。やはり幼少時からお父さまの赴任先の変わる度に、彼に伴い転々と移動して歩く、いわゆる転勤族でしたから、【郷に入りては郷に従え】が身に付いているのでしょうかしら？

家主の Mrs.ブルックに例の博多人形を差し上げて大層喜ばれました。＜可愛い、可愛い！＞っておっしゃって、人形の頭を撫でました。ペピには今日、風船やらチョコレートの入った虫のバッチやらをお土産にあげて来ました。例のブガブガいう風船付きの笛やら、クネクネ蛇状の吹くものやらを鳴らして大騒ぎでした。和紙製の財布入れも奥さんにとても気に入ってもらって、皆と御茶を飲んで話して帰ってきました。ロンドンに帰れば帰ったで、お帰りなさいと喜んで迎えてくれる人たちがいることは、なんと云っても嬉しいことです。この頃は、そうした付き合いが深まるにつれて、人種の違うことや言葉の違うことをそれ程意識しなくなりました。

食事はなるべく小食ですませています。帰ると果物やら野菜類が随分と値上がりしてましたので、肉類は言われたとおり全然食わず、なるべく牛乳やらチーズやらトマトやらをいただいています。思い出ずに日本人の食生活の豪華さには驚き呆れます。よくもあれだけ物が豊富なこと！私は未練たっぷり！それで昨日、仕事の帰り道すがら、あれこれぼんやり考えてたの。帰りのスーツケースにいっぱい日本の食糧を買い込んでこなかったのが惜しかったなあって。私が『ふくや』で買ったスルメの袋やけど、どこかに置きたんだっかしら、無いなあ、頻りと残念がってたの。それがなんとまあ、お父さまが博多人形をしっかりと包み入れておいてくれた紙袋の中に

本やらと一緒に入れてあったのを見つけたもので、もうバカみたいに大喜びでした。全然思いがけないことだったから余計に嬉しかったのです。それはともかくとして、今回の帰国は、お蔭さまで実にいろいろと大収穫でした。将来のことがほぼ安定した、見通しが付いたということはなんと云っても嬉しいことです。

唯一気掛かりとして、お母さまの【舞鶴整肢学園】の勤務が辛くならないことを祈っております。どうぞ気持ちを明るく持って、楽しいことを考えて頑張ってください。子ども相手の仕事はいくら怒るやら叱る時があってもどうしたって可愛いし、またあした子どもらには特に不憫さも抱くなりで、お母さまさえ体の自由が利くなら、そこで仕事を続けてゆくことは大変意味のあることだと思うのです。私もこっちの児童養護施設では下働きでしたし、躰けの面で上司に言いつけられたようなことしか出来なかったもので、なんと他人の子どもを他人の意に適うような育て方をするってのは出来ないものだと、また厭なものだと思ったものですけれど。集団の中で集団の子どもたちの面倒ってのは大変で、自分の望む通りなんて不可能なことですし、そんなことで嫌気がさす時があるのは当然なのだと思うのです。ある程度、自分がどうしなくてはこうしなくてはと頑張ることを止めて、集団の成り行きに任せなきゃなんないことも出来てくるやろから、一生懸命一人ひとりの子ども状態を案じてよりよい治療などを心に描こうとするものには、そこら辺のバランスを取ることが至難なことです。それでも子どもは、一生懸命すればしたで、伝わるものがあるでしょう。判っているものですし、お母さまに直接的なお返しがなくとも、言葉に言わなくとも、その子どもに影響すること大ですから、お母さまの一生懸命さってのはこれからもずうっと貰いていて欲しいものです。

いろんな人がいろんなものに愛情を注ぎますけど。やっぱり愛情ってのは注ぐ対象が要るんですね。犬を5、6匹飼って、抱いて寝るやらの狂気を演じたり、それ以上にけったいなのは鶏を何匹か飼って、1匹1匹に名前を付けて、自分が食事するときは同じように箸でご飯をやるとか、まるで幼児を扱うと同じようなやり方(その人、子どもはいなかったの)で、鶏が死んだ時はワンワン泣いて、お葬式を盛大にしてやったとか。傍目からみれば、滑稽の極みなんだけど。全然そんなのがなくとも充分に満足している人もいるわけで。私たちのように他人さんの産んだ、それも難しいばかりの子どもたちの生きるのを助けてやる仕事に携わっているってのも、考えてみればおかしなもので。そんな面倒なのよりは、本荘の伯父さんのように、菊やら小鳥やらの世話の方が気楽やろにねえと思っちゃう。お母さまもいざお役目ご免の時はすっきりとして、又何か楽しく面倒を見るものを手に入れたらいいのやと思います。ここ迄やったことにはご苦労さん！という気持ちで自分を大いにねぎらってやる必要があります。肢体不自由児は年々同じような割合で生まれてきているんやし。それを世話する看護婦さんやらも年々育成されていっているのやし。お母さまの気持ち次第です。ここまで私は頑張ったのやから、もうバトンタッチを後の人にしようと思った時点で職を辞めればいいのです。

来週【タヴィ】の私の指導教官に会うことになっているのです。お母さまの状態がいいのならともかく、私もあまり長居をこっちでしたくないと思ったり、気持ちが定まらないのですが。どうみても私の宿命というか、次の世代の人のために立派にバトン・タッチすることが出来るだけの力量を十分に蓄えておくべきだとも考えたりします。どうぞお元気で。 千鶴子より

.....



1976年9月8日

お父さま&お母さまへ

今日、目一杯掛けて、日本へ送るために買い物と小包みづくりに精出し、なんとか済ませました。まるで気狂いかと思われるほどわんさとチョコレートを買いました。お父さまの喜ぶ顔が浮かぶものだから、つつい奮発しちゃうわけ。日本円に換算すれば大した金額ではありませんが。まあ、当分満足してもらえだけの量はあるはずです。どうぞ楽しみにしていて下さい。

10月過ぎに、そちらにクリスマス頃に届くようにもう一度送ります。今回のものはお母さまの好きなように学園の親しい人や隣近所に配ってやってください。こんなものでもお父さまやらお母さまが喜んでくれるということで、私も何やら嬉しいです。そう言えば、いつでも私は住んだ土地土地でいろんなものを買っては帰省する際おみやげに家に持って帰るのですが。京都では、道端で樽で京都の漬物を売っていたおじさんのことが懐かしく思い出されるのです。ロンドンのチョコレートのことも、いつか時を経て、夢でうなされるほど買い込んだなあなどと回想して笑うことができるでしょう。

それから針の糸通しに便利なものを買いましたので送ります。とても簡単なのです。お母さまは針に糸が通せないとかンシャク起こしていたけど、私でもカンシャク起こすような穴の小さな針を使っているのですから無理ありません。そんな無理せんでも、穴の大きめの針が手に入るでしょうに。ついでだから、それも送ります。年をとると昔出来たことが出来なくなるとか、支障を感じ出すのは当然でしょうが、それに対する対策も考えればなんでもないでしょうし。極力不自由な思いをすることがないようにして下さい。

最近のことだけど、心理職の或る年輩の女性の方で、小学生のお子さんが二人いるとかおっしゃる方からたよりがあって、【タヴィストック】に一年留学したいとおっしゃってらして、いろいろと私にお尋ねになったのだけど。子ども連れで一年間英国滞在するのは大変だなと思います。結婚すれば、女性の場合は特にがんじがらめ(日常の家族の世話やら掃除・洗濯やら)になるし、外国に居れば、子どもの教育が問題になるわけだし、二重にも三重にも大変さが増すし。私なんて良し悪しやなあと思う。独り身であるからこそ我がままが通せたのだもの。私も将来、いずれ結婚したいとは思うけど、自分の仕事を続けていけば、自分の私生活を犠牲にしなきゃなくなるかしらと案じられます。子どもには少なくとも生後1, 2年間、母親が別の誰かと入れ替わったりして、つまり現われたり現れなかったりするのはいやでしょうし。複雑な思いです。お母さまが【舞鶴整肢学園】に勤め始めた頃、私たち娘3人は家事全般、ご飯炊きやら掃除やら出来る年頃になってはいたけれど、それでも今思えば皆よくぞやったもんだなあという感慨があります。母親を一生傍に置いておきたいのは子ども側のエゴというものだけど、いくら母親の方で賢く気を配ったとしても、子どもにしてみればそういうものに限りがあるというものでもなくて、きっと満たされないという気持ちには変わらないのであって、そうしたものはいずれ子どもの気持ちの中で整理されねばならないでしょう。

そうした母親であることとその背負う責任というものは逃れられないもので、また逃れては女性であることの喜びも味わえないものだと思う。単純に主婦でありたいという願いもどこかにある引っ込み思案の私が、よくもまあいつ迄も長々とこんなところで頑張っているわいと呆れたり、うんざりやらがっかりする時がないこともありま

せん。でも一面、気楽なことには相違ないので。仕事に生き甲斐を持って張り切っている若い人たちと知り合うにつけ、私なんて恵まれていて、好きなように生きてられるんだからとも思うのですが。誰をどう羨ましがっていいってことでもないでしょうし。当分は腰を据えて、掛かります。

今では峠を登りつめた感がしています。これ迄の辛苦を思えば、これから万歳して歩ける感じです。日本で将来認められることも嬉しいですが、まずは此地で充分評価を得て、励まされて邁進してゆけるようにこの‘野望’を抱いています。おそらくどこか私の裡で秘かに、此地ではまだ半人前といった、非力感というか無念の思いが燦っていたようです。万事何ごととも‘落とし前をつける’ということは肝心なことなのだと思います。かしこ 千鶴子より



1976年9月15日

お父さま&お母さまへ

写真とたより、今日届きました。庭の写真がよく撮れていて、私も満足しました。昨今そちらで流行っているとかの「シェー！」のポーズのお母さまの写真は、元気いっぱい張り切っていた頃の面影そのまま、こんな風なところもまだまだあるのだから、今後まだまだ頑張れるとどうぞ思ってくださいように！

お母さまの根っからの‘看護婦魂’は誰でもが承知するところ。それ故に【整肢学園】の子どもやら親たちに頼りにされてるのですから。そういうことで誠意と言うものは通じるのだと思って、私は安心しております。それ以上は【整肢学園】に期待することは考えものだと思います。何といっても、一つの駒になって、大きなゲームに参加しているようなものだから、無我になりきること、そして必要以上には頑張りを出さないこ

と、そして誠心誠意を込めて子どもの療育に携わり効果をあげることはそれぞれ違って考えたものです。

ところで、こちらで日頃親しくお付き合いのあるご近所のシモヤマさんとこに2番目の子ども(男の子)が産まれました。それも奥さんの陣痛が始まったのがご主人の外出中で、急遽私は上の子の世話をしに駆けつけ、奥さんは病院から救急車を呼び、それが到着した時点で一人で出てゆかれたのよ。それで間もなく無事に男の子誕生でしたの。なかなかスリルのあることでした。上の女の子はまだ1歳半だからか、状況を把握してるとも見えず、でもどうやらこの事態に不穏な空気を感じ取ったのか、一瞬たりとも眼が離せないわけ。放って置けば、糸の切れた凧みたいにショボショボって力なく崩れて床にゴロンとなってしまうわけ。私も彼女の気持ちが分かるから、焦って懸命に彼女のご機嫌とりして、もうぐったりと疲れてしまいました。帰宅されたご主人に彼女を引き渡し、安堵したものの、なんだかずっと気掛かりで仕方ありませんでした。殊更異国だからというわけでもないけど、家族が一人増えるということは大変なのですね。でもほんとと感心したの。シモヤマさんの奥さんの様子を見ていると、女は強い！って改めて見直したわよ。一人で誰も付き添いなしに赤ちゃん産みに病院へ行けちゃうんだもの！総てが英語だよ！泣きたくならないのが不思議。救急車が到着するまで台所でチマチマ片付けものしてたりするんだもの。。もう私はハラハラ気が気じゃなかったわよ。これからが大変というところでしょけど。でも、いいわね。子どもを産み育てることでぐんと逞しくなるのだしよと思い、ちょっぴり羨ましいような。。私も将来、いい家庭を持とうと思ったの。では、お元気で。かしこ

千鶴子より



1976年9月19日

お父さま&お母さまへ

今日は日曜日、久し振りにさわやかな秋の空です。裏の野原を散歩して来たところです。雑草類はほぼ枯れていましたが、いくらか野の花がまだ咲いておりましたので、摘んできて台所に飾りました。この頃近くの花屋さんにもあまり花の種類がなく、お値段も大層高くなっていますので、気軽に花を買い求めることが出来ません。それに野の花の方がなんと云っても愛らしい気がしますね。私は今満足したところです。こんなゆっくりした気分になれるのは当分ないと覚悟しなくちゃいけないので尚更のことなのです。

先日、【タヴィ】コースの私の個人指導教官であるミセス・ラスティンにお会いしてきて、将来の話しを決めてきました。彼女とご一緒に、日本で将来自分が落ち着くであろうところの状況をよく鑑みながら、【タヴィ】でのあと2年間の最終課程のあり方を検討したのですが。かなり満足できるものと確信しまして、私は安堵しているところです。飛躍の年を迎えて、私は多少緊張しているところです。これ迄充分にこの新しい段階に入るべく準備してきたので、全然無理なく進めると自信を持っています。ミセス・ラスティンも随分喜んでくださって、頑張るように励まして下さいました。私はここまで着実に歩いてこれたことを嬉しく思ってますし、今後も大きな収穫を持ってやり抜けると思ってます。30の歳を迎えようとして、ようやく自分のやっていることに確信と自信が持てるに至ったことに大きな安堵を噛み締めているのです。それもこれも、なんと云っても両親の力添えのあったならばこそこのことですし、そのことは実に掛け替えの無いことと思ってます。お父さまお母さま、有難うございました。今後もしようしくお願い致します。

病院の方でも、Mr.ジョン・ブレンナー
には、私が「サイコセラピストとして類稀な恵まれ
た資質を持っている(exceptionally talented
だってさ!)」と太鼓判を押されてますし。その評
価は【タヴィ】でのセミナーでも同様ですが。今後
【タヴィ】内でトレーニングケースを3症例(週4回
以上のセッション)のセラピイを担当することが予
定されてます。各ケースそれぞれに別々の指導
教官が付くのです。それで、トップ・クラスの先生
方から直接に指導を受けるわけですので、私に
とって‘固めの時期’となるのは間違いありません。
日本に帰って以降も尚さらに、その後の研究に
おいてご指導を仰ぐことにもなるでしょうし、また
将来私の日本での業績の発表の場をこちらに
確保することが望ましいですし、その点此地で
優れた人々との縁故をがっちりと固めておきたい
とも思っているのです。【タヴィ】を修了した訓練
生でも、ドイツやイタリアとかの人ですと、ごく気
軽に皆さん折々に【タヴィ】にスーパービジョンを
受けに戻って来たりしてるみたいなのよ。

私の場合、それがどうなるかはともかく
として、こちらで後2年間あれば、充分これ迄の
仕事の総括も出来るでしょうし、こうした時間的
余裕は改めてなんとも有り難いと思われます。
日本へ戻れば、一先達として後進の指導を担
うことが期待されることになるとしたら、こちらでま
ずは私自身が精一杯充分に導かれ、育てても
らったという手応えを実感することが肝要かと思
われるのです。

カセットテープで琴の曲を毎晩聴いており
ます。やっぱりいいですね。気持ちが和らぎます。
それじゃ、どうぞお風邪を召さぬように。

さよなら 千鶴子より

.....



1976年9月25日

お父さま&お母さまへ

おたより、度々有難う。お母さまは職場
復帰の日程が延びたのを幸いに、随分と張り
切ってあれこれ手を付けているらしく、どこにそ
んなエネルギーを蓄えていたのかと、私の方が驚い
た具合です。一時的に‘枯れ井戸’状態だった
のでしょけど、またまた新鮮な水がコンコンと湧
き出した様子で、さすがお母さまだと感心したの
です。ですから、要は一度に水を使いすぎず、ま
た使わずに放っておくこともせず、適当に適時に
汲んでゆくことが肝心だと思われます。他人のこ
とには殊更頓着しないという鉄則もこれに尽きる
わけです。

趣味の手芸に大層楽しんで打ち込ん
でいる様子ですが。どんな作品が出来たのかな、
見てみたいです。私はどうもそんな余裕も持て
ず、そんな暇があれば1ページでも本を読みたい
ような心境で暮らしてきたから、今思えば損だな
と思われてなりません。大いに今後の活躍を期
待します。民謡の踊りにしてもお母さまには「昔
とった杵柄」、若かりし頃晴れやかに秋田の村
祭りで踊ったものだもの。得意で楽しんでいるだ
ろうことは察せられます。手足腰が思う通りに綺
麗に動くということは嬉しいものですし、西洋風
の美容体操より、ずうっと美しいと思えます。

例の舞鶴の鯉クラブの池巡りに付いて
いった話。愉快じゃないの! 概して日本の女性
は男どもの集まりの際にはお茶の給仕に出るぐ
らいで引っ込んでいるのが常識という考えがある
けど、なんと貧しい考えかと思われます。それで
どれだけ自分の興味・関心やらを広げる機会が
失われているか分かりません。お母さまも池の巡り
に付いていっているんなこと学んだとのことすし。

お父さまとの会話もこれでちょっとは豊かなものになることでしょうし。向学心・興味を絶やさないことはなんと云ってもしんどいことですが。それだけ人生が面白いものになると思うの。‘紅一点’は良かったねえ。臆せずに話しの中に加われるような、堂々とした女性はもっとも期待されるものと思われま。パール・バックがその昔、日本を旅行した際のことだけど、日本の女性も男にくおまえは黙っていろ>と言われて、黙らずに返答できるようにいつなるのだろうか、と感慨を込めて綴っておいでです。もう黙らされて承服できるような女性はいなくなったとは云え、それにしっかりと物事を考え、それを言葉にできるような女性が増えつつあるとは云え、やはり黙っていてそれで済むならその方がいいってことに落ち着くことが得てして多いのじゃないかと思われま。

こちらの方もだいぶ秋の気配を深めています。枯葉が路上に散っています。風邪が流行っているみたいだけど、私は大丈夫です。先日谷口の奥さまに招かれて、ハムステッドのご自宅でおもてなしいただきました。専業主婦とは云え、随分とものごとを深く考える方で、中年期のさまざまな心の綾も分かり、お話が私には興味深かったです。歴史書をこの頃読んでいて。ヨーロッパ各地を旅行しながらですし、大層世界の歴史が生き生きと見えてくるらしいのです。私もいつかヨーロッパを見たいです。でも最近の物価高ではとてもそんな余裕がありません。何かしら人々の生活も全般的に汲々としている感じです。財布の紐をガッチリ締めなきゃってね。それにしても要るだけの出費ってのは結構掛かるものですし。そのうち仕事の口が他に取れないものかと思うのだけど。神さまにお願いしておきましょう。いずれ又。お元気でね。 千鶴子より



1976年10月16日

お父さま&お母さまへ

しばらくご無沙汰いたしました。送金は確かに届きました。誠にすみません。予想以上に高額のお金を頂戴し、びっくりしましたが。最近の物価高で、どうも夏頃に比べても、毎週要る生活費が嵩んで、内心ヤキモキヒヤヒヤする思いでしたので助かりました。ほんとに有難う。昨晚もTVで食料品の値上がりの報道がありましたが。まったく大変な状況です。給料の方もこずうっと据え置きです。病院の方から授業料の援助があるという話がずうっと前にあったのに、それもまったく沙汰止みなのです。

ポンドの為替相場での下落は、予想ではなおいっそう見通しは暗いとのこと。なんとしても不安なことです。けれど私は親からいただいているお金でまずまず充分程度の生活が出来ていますし(外食したりしないし、出掛け回ることもこの頃全然しないからですけど)、不自由な思いというものはしていないと思われま。有り難いことです。【タヴィ】のトレーニングに関する限り、2年延期は是非とも必要であり、経験を充分に咀嚼・消化するだけの余裕を持ちながら挑めるとの思いであります。此地での社会的状況がこんなだからして、気持ちは日本へ帰ってからのことに希望を繋いでいるようなことです。

病院の仕事やら【タヴィ】でのセミナーなどで凄く目まぐるしいスケジュールですが、私の問題意識がはっきりしてくるにつれて、それだけ消化能力・理解力が付いてきたのか、以前よりずうっと疲労感が緩和されつつあるような気がします。それで、余力が出てきたということでもあります。これ迄のように自分の専門の勉強にどっぷり浸かっている状態では気持ちの上で退屈

をしてるようにも思われ、なんらかの違った刺激で気分転換を図ることが必要だと思いついて、成人のための夜間大学で【社会文化人類学】及び【フラワー・アレンジメント(活け花)】の講座を受講することにしました。【社会文化人類学】のほうは、自分の専門と多少ひっかかりがあるし、視点の広がりということで大いに興味深いのです。【活け花】がこれまた素敵なのです。お母さまが以前言ってたけれど、確かにやっている時ってとても充実した気持ちです。先週初めてのレッスンだったのですが。花は花屋で求めて、葉や枝やは裏の野原で失敬して、結構とても綺麗に仕上がったのです。日本の活け花の基本的な教え方とは些か趣きが違うという感じですが、先生がチョチョと手を貸してくれるとまるでサマになるのですから感心します。新しいことを学ぶことは嬉しいことです。謙虚な気持ちにもなるしね。いろんな人がいろんな能力・技能を身に付けて教えあい学び合いということはいいいことです。私の作品が出来上がったのを先生がとても満足してくれて、皆を呼び集めて、見せたのよ。それで皆が<いい、いい！>とか言って喜んでくれたの。そんなの初めてのことだったから、もう恥ずかしいような嬉しいような・・・！どうやら私って注目されるより、人の後ろにくっついていくぐらいが気楽でいいと思ってるみたい。将来のことをひどく期待されて、今から「先生」呼ばわりされるって、ちょっとかないません。それだけに真剣にならざるを得ませんけれどもね。もうすぐ30歳を迎えようとしているのですから。昔、30迄にはなんとか格好付けるからお父さまには見栄張ったけど、なんとか大風呂敷に過ぎないと言われずに済みそうで安堵しているのです。でも正直なところ大変なことです。お二人とも、どうぞお元気で。

さようなら 千鶴子より

.....



1976年10月23日

お父さま&お母さまへ

その後如何ですか？こちらは落ち葉が雨続きのせいで濡れて路上でビショビショになっていて、まさに冬の訪れが来ようとしている気配です。もうすぐ8月の末にそちらから送ってもらった船便の小包みが届く頃かと毎日すごく心待ちにしているのです。こちらから送ったチョコレート類を詰め込んだ小包みはそちらに届くのはまだまだ先ですね。お正月頃に届くようにと、もう1回送る心算でおりましたけれど。この頃的生活費の掛かり具合やら、ぜひとも必要な本の購入代金やら重要な論文をコピーするのにかかるコピー代やらで、どうも懐具合が寒くなって来ましたので、やはり見送ることになりそうです。でも、それが昨晚、送った夢を見ましたよ！ご免！

こちらの経済危機は深刻です。先日も大メーカーの会社の倒産でかなりの失業者が出たとのこと。こうして無事に暮らしていることが嘘みたいです。【タヴィ】のコースの授業料については何も言ってこないとこみると、【タヴィストック】のクリニック内で仕事(症例)を持つことが確定していることで免除されるのでしょうと察せられます。それ以上の報酬を期待することはこの現状では無理なようですので、そのうち何かいい話が舞い込んでくるのではと無理にでも希望的観測を抱こうとしておりますところ。

ところで、例のシモヤマさんとこの話しただけど、二番目の男の子が産まれて、3日目で奥さんはさっさと退院してきはったのだけ。上の女の子(1年5ヶ月)がとんでもない反応を示したんですって。昼・夜問わずギャーギャーかなきり声をあげる、酷い状態らしくって。それに後で

聞いた話なのだけど、まず病院に連れて行った際、病室にお母さんがベッドにいるのに嫌がって近寄ろうとしないとか、泣き喚きが止まらないやらで・・・あまりにひどいので退室を促されたり。それ以後も母親がベッドに横になるとかなきり声を上げるとか、手にしてる哺乳ビンを取り上げるとか、母親の注意が赤子の方に行くのを阻もうとするやらで大騒ぎをやらすらしかったの。

それがまた間が悪いことに、男の子が生まれた1週間後に、ご主人はお父さまが危篤とかで、急遽日本へ帰られたのよ。それで私はその日1日一緒に居てやって、上の子のジュンコちゃんの面倒やら、奥さんにもご飯作ってやりたりしたというわけ。どうやら前の週にひどい寒気がして、ブルブル震えていたって聞いていたもので、産後の肥立ちのためにも彼女を極力安静にさせてやる必要があると思ったの。一応お手伝いさんは確保してあって、1週間うち3日間は英語勉強に来ている日本人の女の子をお手伝いに雇ってあるし、2日はもう一人の友だちの女の子が来るとのことで、私は土曜・日曜に居てやることを約束しましたので。何とかこの事態を凌いでおられるご様子です。ジュンコちゃんはお相手してもらう人がある限り、すごく機嫌がいいのですけど。夜寝る前はやっぱりいつも側でみてるパパがいないせいで、何度も何度もかなきり声をあげるもので、私たちの方ももうぐったり疲れた次第です。こんな状態のときにご主人ももう一つ頼りないというか、お父さまはずっとご病氣らしくって(76歳ですって)、そりゃ2、3年会えないのだから、ぜひとも会いたいでしょけど。こっちのこと何もかも投げちゃって日本へ飛んで行っちゃったわけだから。それってどうかな、と私はちょっと批判的です。大事な国際建築士の資格免許の試験も間近に控えているのに・・・それに男の子

の名前も付けずに行っちゃったのよ。本当に夫婦がお互いを一番必要としている時に間に合わないなんて、旦那失格だと思いました。そりゃ親の死に目に会えないのは一生の恨みと云いますから、行くなというわけにはいかないでしょうけど・・・家庭やら仕事やらいろいろと責任が増えるにつれて、なかなか自分が我が身一人だけのものではなくなるんだなということを肝に銘じて思います。そんなこんなで、私としても将来の家庭設計を慎重にと考えざるを得ない心境です。

ところで、サッチャンが産まれた頃、私って扱いが難しかったかしら？ジュンコちゃんとはほぼ時期が同じだから、いろいろと想像しているのです。結構私も荒れたかもね。覚えがあるような、ないような・・・どうであつたにしろ、こうして大人になっているのだから、不思議といえば不思議なものです。子どもを産み育てることの親の気苦労やら、それに応じて子ども側の動揺する心やら、生きることはなんと葛藤に満ち満ちていることか、しみじみと考えさせられた次第なのです。

では又。 千鶴子より



1976年10月29日

お父さま&お母さまへ

とても寒くなりました。毎日グズグズとした雨模様のお天気続きですので、体がどうしてもジドジドします。乾布摩擦をして、風邪を引かぬように気をつけております。【タヴィ】でのセミナーやら Mr.ブレンナー宅でのスーパーヴィジョンやらと夜に出掛けることが多いもので余計になのです。お母さまもお父さまもどうぞお気を付けて、体を冷やさぬように。足湯だけでもいいわよね。どうぞお大事になさってください。

この頃のそちらの状況では、お父さまがお母さまの職場での愚痴話をよく聴いてくれるって伺い、ホッとしています。それでこそ夫婦です。夫婦という、はっきりとした枠の中では安心して他人を憎んだり、蔑んだり、笑いものにしてやる事が出来ます。他人に攻撃意識を持つことはある処・ある状態では健康なことです。ファイトを燃やして負けずに、意地を通してください。職場でのゴタゴタは遅かれ早かれ終止符を打つ時があるでしょうけど、夫婦関係のすれ違いは死ぬまで続く課題なはずですし。その点では好転を迎えたこと、お二人にとって収穫だったと私は思っているのです。それこそずっとお母さまの気持ちのなかでしこりだったはずですね。

私としても、ずっと親孝行らしいことも出来ずにいる身である以上、心苦しい気持ちもあるのですが。要するに、お母さまがお父さまとじっくりゆくこと、互いに話が出来て、胸の内が解かるということになるために、お互い、この事態を迎えたのだと思うし。そのための良くなるための一幕であったとも考えられます。

それに取り分けて、お母さまが今後の人生について一個人として思慮を深めたことは貴重なことだったと思うのです。忙しい忙しいって日々雑事の中で埋没してしまって、人は自己を疑い、これでいいのかと迷い、じゃあ自分はどうしたいのかの回答を得るために頭を悩ますことを避けるものだと思います。疑わぬものは進歩もない、と私は考えます。いろんなこと無駄ではなかったわね！

ところで、フラワー・アレンジメント(活け花)のクラスは大変嬉しいのです。昨晚の仕上がりは<完璧！>って先生に誉められましたよ。あしらいの仕方が日本のとは違うのですけど。うんと華やかに出来上がります。日本へ戻ったら、

ぜひご披露致しましょう。どうぞ楽しみにしてください。それではいずれ又、たよりします。

かしこ 千鶴子より

.....



1976年11月8日

お父さま&お母さまへ

私からのチョコレートが着いたとのたよりを貰って驚いています。早かったわねえ。私の方にも小包みが2日前に届きました。すごく嬉しかったです！大体中身は既に分かっていたとしても、大感激でした。パジャマが暖かくって、ちょうど急に寒くなってきた時なのでほんと有り難かったです。やっぱり日本の衣類は優れている、いいなとか頻りに思っています。食料品は、お正月も近いことですし、大事にして使います。誠に有難うございました！感謝です！

ところで先日、里帰りしてらしたシモヤマさんのご主人が、お世話になったと言って、わざわざお礼に見えました。(お父さまが危篤とかで一時帰国してきはったの。)おみやげにお餅をいただきました。(謝礼金も...)この方は、実は某大手建築会社の社員なのですが、なんでも建築士の或る国際免許を取得するため、此地に滞在されておいでなのです。その試験の関係で、手続きがごたごた・・・とやらで、もう1年の滞在を余儀なくされそうなのだけど、そうした事情を国元のお母さんにはっきりと伝えられずにこちらに戻って来てしまったっておっしゃってました。(お父さまはやはりお亡くなりになられたそうなの...)。彼、葛藤してるわけ。息子の自分が異国暮らしをしていて、母親を一人寂しい思いをさせているってことが親不孝なのですかね？どう抗ってみても、肉親を想う気持ちってのはどうにも断ち難いもの。私にしてもそのジレンマの板挟みは至極

分かります。でも、奥さんが言うの。くだからと云って、今なにもかも放って日本に引き揚げてしまえば、自分たちも同様のことを自分の子どもたちに期待する気持ちになるでしょうし・・・>ってさ。偉いわよね。ここは一つ踏ん張らなくちゃね。子どもは子どもの生活があり、仕事があり、時には親孝行を据え置き状態にしなくてはならない場合もあることを、痛みを伴いながら、それぞれ親も子も双方共に思っていることでありましょう。

そちらは今、柿の美味しい季節なのですか？私も今朝、1個大きな、熟した柿を買い求めました。18Pです。たぶんイタリアからの輸入ものです。その色づきの鮮やかさに、眺め眺めしては喜んでいます。こちらは急に街路樹の葉が落ち、寂しげな風景になりました。こちらでは紅葉らしいものはなく、殆どが黄色なですよ。日本に帰れば、吉野やら奈良に紅葉狩りにお母さまやお父さまと一緒にいける、と今から心待ちにしています。近くで(または庭で)もしも紅葉した葉っぱを拾ったら、封筒に入れていつか送ってくださると嬉しいのですが。やはり‘日本恋し病’は秋にはいっそう募るみたいなのよ！

では又。 千鶴子より



1976年12月3日

お父さま&お母さまへ

こちらの方、ぐんと寒さが厳しくなりました。今朝などは霜が降りて、格別に寒かったのです。もう早、カレンダーは12月ですね。

ここ2週間ずうっとそちらからのたよりが途絶えていますから、私はどうしているものかと案じてました。やはり心配で、電話を掛けた方が早いと思ったものだから、お訪ねしたシモヤマさん宅で掛けたのよ。ところが二人とも元気そうな

声で、私はまるで安心しました。お父さまの声はしわがれていたのに、朝で起き掛けやからかなと思っただけど、薬のせいなんですか？胃の調子が悪いのは昔からだけど、食事の後など5分は我慢の子でじっと座っているようにするとか、体をせかせかと動かしてはいけませんよ。

そっちも寒くなったのですってね。庭の池の水も冷たいことでしょう。錦鯉たちは動きが鈍くなっているかしら。どこにいても我が家の庭の鯉たちのことを思えば、気持ちが慰められます。海外旅行も聞えはいいけど、実際のところ、どこよりも我が家が一番やと内心思っているのだから、お父さまもお母さまもどうにも幸せこの上ないことですわね。

ところで病院の給料はここずうっとパタッと上がりません。英国自体がジリ貧になっていくということは、昔の栄華が凄まじいだけに、なんとも悲惨なものです。医者とかインテリ階級の海外流出が続出してるんだとか。マスメディアでも取り沙汰されているのよ。さっさと祖国を見捨てるというか見限る、その非情さにはなにやらぞっと背筋の凍る思いがする。この国に未来はないということなのかしら？ますます医療手当ての実情は悪化していますし。勿論のこと、いざとなれば金のある階層の人は裏の手があるわけだけど。無い人々は取りこぼされる一方なのです。ナショナル・ヘルス・サービス(国民健康保険制度)が赤字で破綻しかけているなどとも噂されていますし・・・。

ところで、【タヴィ】のセミナーで、セント・ジョージ病院で担当しているセラピイのケース(症例)の報告を先週したのです。今週もう一度引き続き発表する予定なの。いつでも不思議に思うことは、私の【タヴィ】での発表はとても皆に受けるの。そもそも英語で思考するということ

は筋立てるということだから、ずうっと此国で勝負してゆくには、その点で私なんかはどこまでもハンデ(不利)が付いて回ると思ってきたわけ。日本語には論理の組み立て(筋立て)に致命的な欠陥があるんだわ。それは間違いなくその通りなんだけれどね。最近ふと気づいた。どうやら私がここで皆に受ける理由というのが、お母さまの短歌づくりにも一脈通じるような、ことがらの描写力に秀でているということらしいの。臨場感溢れる語り口というのがね。聞いた誰もが感情移入できるような具合に・・・それが彼らには明らかに無い(劣る!)ということが分かったわけ。これは心理臨床家として将来自分が自信を持っていける方向性を示している。つまりある種の‘鉱脈’を掘り当てたみたいなことかも知れない。つまり、日本における「精神分析」の未来を約束するものがあるとしたら、これだわ。「日本語で精神分析する」という観点がここでより積極的に肯定的に捉えられるように思われたの。ここでは彼らの‘土俵’。どこまでも私は勝てない気分が拭えない。でもいずれは帰国後自分の‘土俵’で勝負できる。そのための素地としての実力が少しずつ培われてきているのは確実で、それは【タヴィ】ならばこそと、私はこの稀有な経験をやはり嬉しく有り難く思うのです。不安な思いを抱きながら帰国するのではなく、自信をうんと付けて帰りたいと思っているのです。それでは、どうぞお体をいたわって下さるように。さよなら 千鶴子より



1976年12月13日

お父さま&お母さまへ

こちらでも随分寒くなりました。先日裏の原っぱを散策したら、足元の草叢が凍っていて、踏むとバリバリって言うのよ。北海道でもよくあんなことあったわね。田んぼが一面凍ってい

たり、その上を歩くとバリバリとか云って土が崩れたりして・・・寒くって手がかじかんでシクシク泣いたこともあったのに。なんだか嬉しかったことばかりが心に残る。そういう生来的な楽天性があるみたい。私って、案外と得な性分なのかしらね。

ところで、先月末にシモヤマさん宅で早めの《年忘れのホーム・パーティ》が催されたの。近隣の日本人ばかり賑やかに10人余が集まったの。子ども連れが多くて、部屋中てんやわんやでもう大変！特大のでっかい鍋にわんさとおでんの具を煮込んで、それはそれは盛り上がったわけなの。やはり日本食が恋しいのね。それが昨晚、帰国するという或る知人の送別会に行ったら、そのうちの一人が北海道の出身とかで、ニシンの燻製が出てたよ。今時とんでもなく高いのでしょ？北海道に住んでた頃はニシンなんて掃いて捨てるほどあったのに・・・秋刀魚だって、土浦ではトラックの荷台に山と積んで売りに来てたでしょ。七輪の炭火で焼いたのが美味しかったわね！此地では心躍るような料理がなくて、まるでさっぱりよ。最近私のお気に入りの料理というのが、蕪を薄く切って酢とレモンと砂糖と醤油で漬物にしたの。お節料理の蕪甘酢漬けのつもりです。いいでしょ？やはり異国暮らしですから食生活には一応きちんと心掛けております。

先週で【タヴィ】の一連のセミナーは今年の終わりを迎え、私は今週から1月の半ば迄かなり自由な時間が持てそう。ここ2週間ほど連続で症例発表をして、そのために資料をタイプしたり、コピーを取って皆に配ったり、なかなかしんどいものでした。終わってやれやれと安堵しているところ。ここずうっと仕事に打ち込んでいたのでしばらく休養します。琴の曲に聞き惚れ、心慰められてます。いずれ又。 千鶴子より